

軍艦官古製造一件

1713

參謀部長(中)印

第一號

主事



抄寫

發付

四月十一日

前田

校合

四月十一日

前田

廿六年四月 日

主務

立案者

決裁濟

大臣



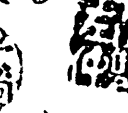
次官



第三局長



第二課長

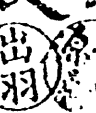


前田

第一局長



第五課長



出羽

第五局長



早崎



前田

訓令案

本年度起業報知艦一隻其有造船部、艦艇製造也シムハキ

ニ付別紙大伴要領書ニ基キ詳細計画ヲナシ製造費算

算按功期限取調提出ス

明治二十六年四月十日

海軍大臣

官房第九五二号

每

頁

汁 耳

呉鎮守府司令長官宛

官房第九五二号

報知艦一隻製造ノ義別紙通呉鎮守府訓令川糸
此旨心得之

明治廿六年四月十日 海軍大臣

造兵廠長

報知艦要領

艦 質

鋼

乗組定員

三百二十七人

排水量

千八百噸

速 力

自然通風

十八海里

強迫通風気壓三吋三

二十海里

推進器

双螺旋

橋

二本

石炭

規定吃水三

四百噸

石炭容積

四百噸

母

質

糧食	二ヶ月分
飲水	十四日分
兵装	
十二冊速射砲	四門
榴彈	三百発
葉筈 火薬共 (彈托下結合セス)	三百発
空包	四百発
四十七ミリ速射砲	六門
彈薬包	四千四百発
空包	四百四十発
五連諾典機砲	四門
彈薬包	八万発

計 目

水雷艇射管

印門

探照燈

水基

端舟

九メートル五〇の小汽艇

一隻

ハメートル五〇のカッター

一隻

ハメートル二五〇のキグ

一隻

ハメートル二五〇のライフボート

一隻

四メートル三〇〇の今キギ

一隻

海

軍

中央會計院行部
參謀部長 中津田

第一課 中津田

主事

廿六年四月 日

主務

校令

沖馬

發付

立案者

決裁濟

大臣

次官

第二局長

第一局長

第三局長

第一課長

第二課長

第三課長

第四課長

指令案

吳鎮第一二〇〇号之廿六年度起業報知艦製造費
豫算認許中別紙通り改正ヲ加製
著手ス

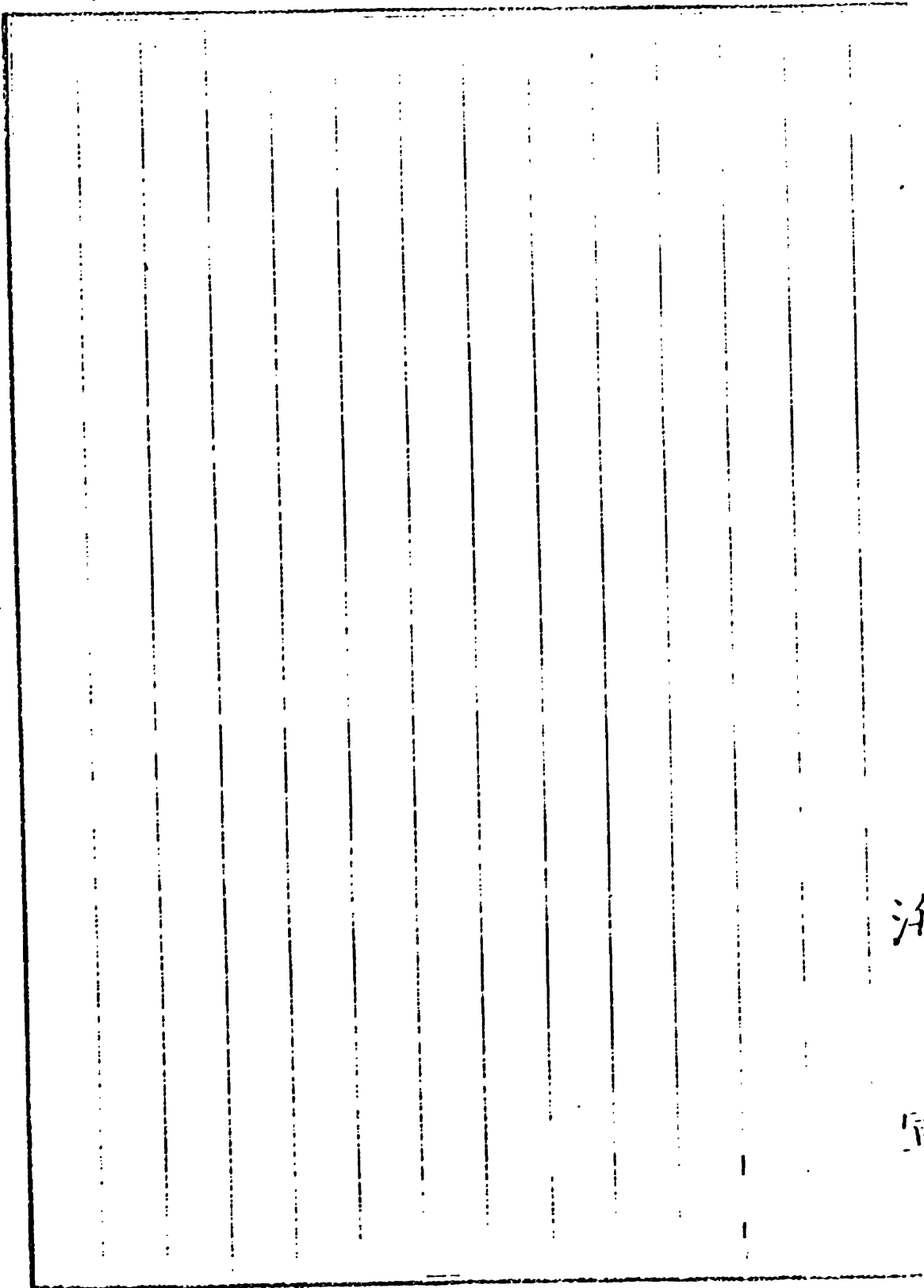
明治廿五年四月十日

官房第一三八号

每

頁

1719



江

屋

1720

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

別紙如

一 諸室倉庫等別紙図面三葉ノ通改正スルコト

一 ビルジキ一ルヲ付著スルコト

一 見張ノ樺樓ハ設ケサルコト

一 適當ノ面積ヲ有スル装帆ヲ備付ルコト

一 機厨部製造方法書中ノ蒸溜器二個ハ各一晝夜ニ水量五噸

ヲ得ル様装置スルコト

一 上甲板中央四十七ミリ速射砲ハスホレシヲ設ケ又前部

艦橋上ノ機砲ハ艦橋ヲ取壊シ各其位置ヲ別紙図面

ニ画入シ充分ノ發射角度ヲ與フルコト

海軍

吳鎮第一二〇〇號ノ二

第二課廻

報知艦計畫圖等進達

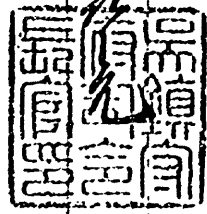
官房第九五二号訓令ニ依り本年一度ノ進達

報知艦一隻詳細計畫圖製造方法書及豫算

書等別製進達也

明治三十二年四月十九日

吳鎮子府司長官有地



海軍大臣伯耆西御從道殿

海軍

報知艦 制衣造費 及 竣工期限豫算書

一 金七拾五萬五千八百六拾壹圓拾錢 報知艦製造費

内 譯

金參拾八萬四千叁百九拾圓拾錢 船体部

内

金拾貳萬六千九百拾壹圓 工費

金貳拾五萬七千叁百九拾八圓拾錢 材料費

金參拾六萬九千五百五拾貳圓 機関部

金拾貳萬貳百九拾八圓 工費

金貳拾四萬九千貳百五拾四圓 材料費

金貳千円

進水貳費

工事 月 子

七拾貳ヶ月

製造費支出始より船脊材据付迄

船脊材据付より進水迄

進水より竣工引渡迄

九ヶ月

三拾ヶ月

三拾三ヶ月

推 進 器	馬 力	速 力	排 水 量	吃 水		最 大 幅	重 線 剛 長	乗 組 人 員	艦 質	艦 種	艦 名
				後	前						
双 螺 旋	自 然 通 風 三 千 四 百 馬 力 強 迫 通 風 三 千 馬 力	自 然 通 風 三 千 八 百 馬 力 強 迫 通 風 三 千 馬 力	年 八 百 噸	四 メ ー ト ル 六 百 ミ リ	四 メ ー ト ル	三 メ ー ト ル 四 百 ミ リ	拾 メ ー ト ル 五 百 ミ リ	九 拾 六 メ ー ト ル	二 百 二 十 七 人	鋼 網	知 艦

要
領

小銃口徑機砲	四	新設艦橋上搭載ス
空砲藥	四百斤共發後	
空砲藥	二百斤四發後	
四十七口徑射砲	六門	上甲板上下舷側搭載ス
空砲藥	四十發	
空砲藥	三十發	
十二口徑連射砲	一門	艦橋及艦尾橋搭載ス
兵裝		
水	中四日分	
糧	二ヶ月分	
石炭容量	四百噸	
石炭現定石炭	貳百噸	
橋	貳	見渡橋橋必要ト認タルハ新橋之ヲ設ケル

浦 算

海軍

五	彈藥	八	イ	イ	
電	氣燈	七	イ	イ	
水雷	發射管	六	イ	イ	
		五	イ	イ	
		四	イ	イ	
		三	イ	イ	
		二	イ	イ	
		一	イ	イ	

一、初、艦橋上、海軍室、上、二、他、一、初、艦橋
 上、置、後部機室上、両舷側、置、

配體重量

七百七拾五噸六百四十六キロ

兵器重量

六拾六噸

汽機及鍋爐(其水共)重量

五百貳拾噸

石炭重量

貳百噸

補助機械重量

拾五噸

飲水重量

(志人廿一日三升即一八四キロ) 貳百貳拾七人二升二四キロ

拾七噸五百四十三キロ

水罐重量

貳噸二百五十二キロ

乘組人員重量

(志人廿五日百五十二キロ) 貳百貳拾七人二升二八キロ

拾四噸五百九十五キロ

橋田村及船員重量

拾噸

船員重量

(橋田村及橋田村共) 其他全員共

拾噸二百二十キロ

船員重量

拾噸七百八十キロ

船員重量

七百キロ

一

五

納 重量

四噸 四百四十二キロ

納 重量

拾五噸 二百二十二キロ

糧食重量

(吉原志人、廿貳年、貳百六十三、貳百六十四、貳百六十五)

貳拾九噸 九百七十四キロ

士官官庫品重量

拾三噸 八百四十一キロ

機噐士官官庫品重量

五拾噸 (四拾七噸定海浦積込、三拾三噸移海品)

常備隊長官庫品重量

九噸 百二十二キロ

常備隊長官庫品重量

九噸 二百二十八キロ

近師主官庫品重量

五噸 百四十六キロ

主計長官庫品重量

七噸 七百キロ

豫備重量

拾六噸

合計排水量千八百噸

報知艦計畫圖目錄

線圖

側面及上甲板機裝之圖

下甲板及船艙之圖

外部機裝之圖

中央切斷之圖

諸切斷之圖

機關組立圖

諸管裝置側面及半面圖

諸管裝置切斷圖

液罐圖

—

—

—

—

—

—

—

—

—

五

五

1730

主事



淨寫

校合



發付

十月三日



廿六年十月日

主務

立案者

軍務局長



第三課長



大臣 次官



訓令案

甲号ノ報知艦製造迄著手官房第一二二八号ヲ以テ及
指令至ルル迄竣工期限ハ明治三十一年度限リト心得一
明治二十六年十月三日 海軍大臣

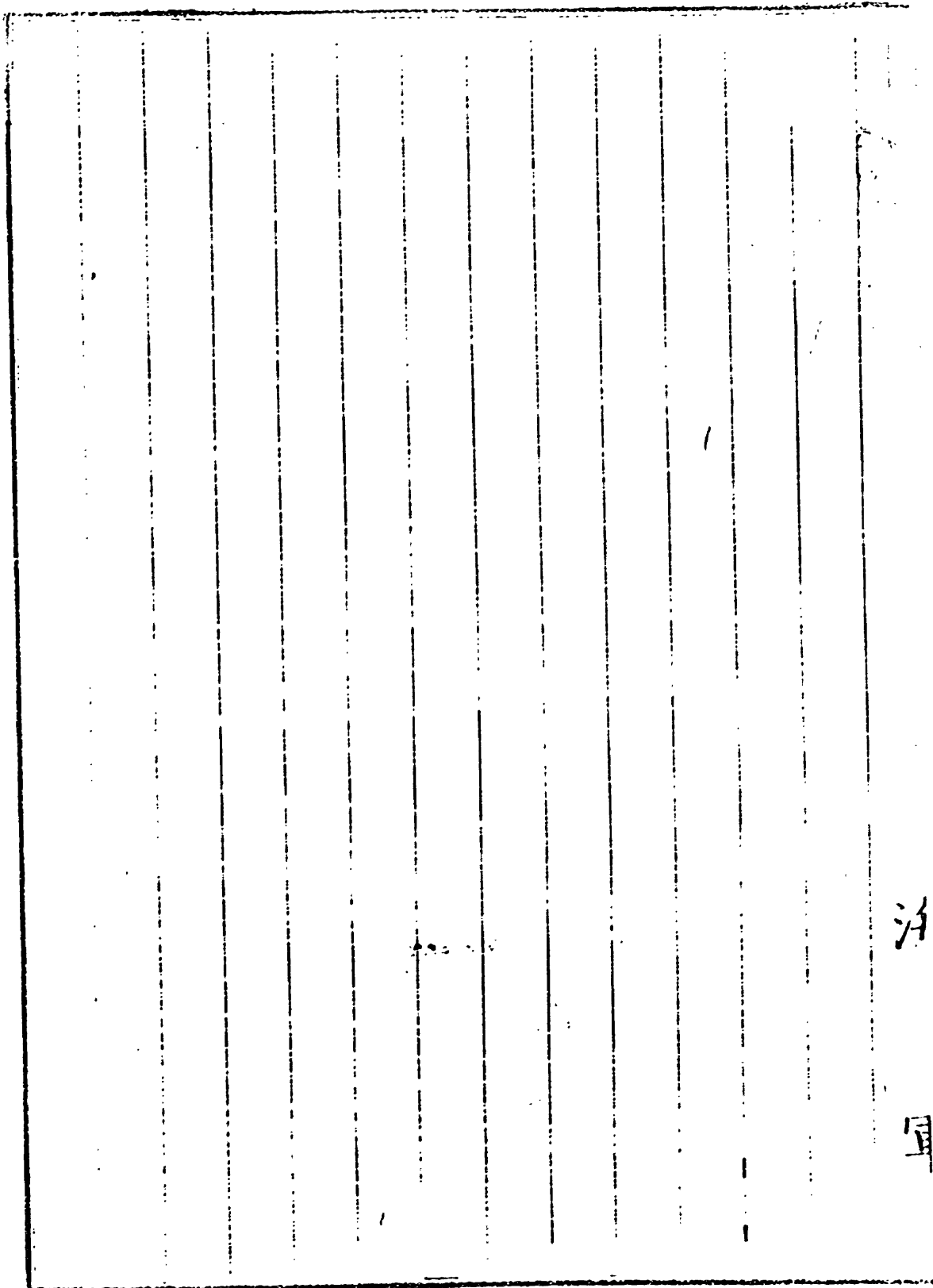
吳鎮守府司令長官及宛

軍務第一三三八号ノ二

母

頁

1732



江

屋

1733

軍務局長

第三課

陸軍部
陸軍省
陸軍省
陸軍省
陸軍省

吳鎮第二ノ入ニ號シテ

甲申七〇武部ヲ以テ生息工務規程ヲ出ス
月廿六日行月廿中該工務規程ニ付月廿
才ニ存殘ノ付野人會ニ付了取依点ニ付
二月五月ノ年午二二二二月三行正其旨は查
收ニ付ルニ付其旨を海ノ月ノ年午二二二
其旨を免重行ノ中画出該規程中表出ル
支出始ルノ年該五司令ノ旨ニ付七午二午月卜
了ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨
之旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨
七午二午月ノ年午二午月ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨
司令旨ニ付年午二午月ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨
指令ニ付年午二午月ノ旨ノ旨ノ旨ノ旨

陸軍省
第七〇二號

昭憲天皇
 御宇
 三月廿五日
 乙未年三月廿五日
 御筆

1735

軍務局長代印

第三課長

甲号報知艦計画の進達し陸奥書に二月五日より二十四日
 あり又造船工務規程報告に竣工豫定年月は昭和二十二年
 五月とあり然れども本艦製造に屬し継続年次の明記なく一
 年を限り有らざる事同様に竣工に於て四月より七月とす
 初年度は昭和二十二年三月と進達し即時中年度四月より七月とす
 以上満了計画に於て又進達し海軍製造部を指令し即時中
 年五月より計画を完了し進達し継続年限を超過
 しない都合に留意し本年限内に竣工しこれに際し必要の
 事項を先づ別添の工務規程報告書中竣工年月の訂
 正を命ぜらるべし

第七〇二號

一
二

1736

軍務局長

吳鎮守府 二〇〇號 九

第三課
第二課
第一課

吳鎮守府

供覽

濟

軍令部長 田中

第一局

甲号報知艦計畫圖等進達

甲号報知艦計畫圖及製造方法書中本年五月官房
第一二三八号ヲ達ニ依リ改調ノ分并計畫者官姓名書共
別紙之通り進達仕美也

明治廿六年十一月四日

吳鎮守府司令長官 田中

海軍大臣 伯爵 西郷從道 殿

海軍

甲 辨報知艦圖面目録

船体之部

線圖

外部艤裝并裝帆之圖

側面并上甲板平面艤裝之圖

中央切斷之圖

下甲板并船艙平面艤裝之圖

諸切斷艤裝之圖

製造仕振書

壹

壹

壹

壹

壹

壹

壹冊

機関部

汽機組立之圖

側面及平面

全

平面切斷

壹

壹

✓汽罐之圖

✓諸管裝置側面及平面之圖

✓諸管裝置切斷之圖

✓汽罐室諸切斷面之圖

✓車軸裝置之圖

✓製造方法書

壹 壹 壹 壹 壹
冊

甲第報知艦計畫者官姓名書

船体部

計畫主任

海軍少技監

櫻井 為三

全分擔者

海軍大技士

岩田 善明

計畫主任

海軍少技監

櫻井 為三

全分擔者

主機

海軍大技士

山崎 甲子次郎

機関部

全

補助機材

海軍大技士

香坂 季太郎

全

汽罐

海軍少技士

高倉 作太郎

海

軍

閱覽濟

大臣

次官

供覽

軍令書

第一局

軍務局長

吳鎮第一二〇號

第三號

第四號

五月十一日

報知艦製造起工之義報告

甲第報知艦製造方本月二十六日ヨリ起工致候
除此旨報告仕候也

明治三十七年五月三十日

吳鎮守府司令長官有地品之允

海軍大臣伯爵西鄉從道殿

軍令部通

第一局

軍令部 中田

主事

廿六年六月日

主務

校合

淨寫

發付

六月廿日

立案者

大臣

次官

軍務局長

經理局長

第三課長

第二課長

第一課長

第二課長

指令案

是鎮第壹二〇〇号の西甲号報知艦掌砲長室其
他改正し件認許ス
明治二十六年六月二十日

官房第七七号

海軍

吳鎮第七二〇〇號

第六課

庚申
九月

印

別紙圖面

事務局長
事務局長
事務局長

官英強
系
画
の
後
二
末
ハ

金温拾一
中六
百回

少
甲号

1744
1745

興鎮第七二〇〇號 由

外第... 課

興鎮... 月... 日

田舎指告行者... 故正と傳存上申

有防一三二ハ舞ヲ以テ... 服生才は...

神皇正統記... 及正皇向中...

若一為一石止...

牙一條... 原汁画号

中ニ申甲板...

上甲板ニ...

場力ハ...

船底ノ...

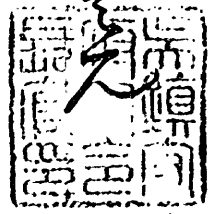
正能...

ト...

1744
1745

中甲板之下に所設の音向の角より音波を導く
 帆座より交換し此方より舵ト下り
 牙二條の音帆を音向の系より両舷に設け中心
 用器より音向の中五音の音土音の助材百パー
 全の音向の音上甲板に設け此の音及より音
 中甲板より音搬の音の音の便利より音考り音
 又舵匠師の音具座より音座ト下り此の音座
 座及音下り音の音の音の音の音の音の音の音
 下り音の音の音の音の音の音の音の音の音の音
 全の音の音の音の音の音の音の音の音の音の音
 音の音の音の音の音の音の音の音の音の音の音
 後音の音の音の音の音の音の音の音の音の音の音
 音の音の音の音の音の音の音の音の音の音の音
 音の音の音の音の音の音の音の音の音の音の音

前條之理由ニ付テハ
 以テ正當ナル事トシテ
 明正ニ申付ル所ナリ
 是レガ如キ事トシテ
 本年七月廿六日
 東京府海防西郷道長殿



海
 軍

1747

陸軍部 第一局

第一局

副官

主事



淨寫

校合



發付

八月廿四日



廿六年八月日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長



第三課長



經理局長



第二課長



口指令

吳鎮茅三〇〇部六甲部報知艦計畫
改正事項中裝帆備備之件認許ス
明治廿六年八月廿四日

官房 三八七番

要 宣

吳鎮第一二〇〇號ノ六

第三課

陸軍省

報知艦裝帆之件ニ付上申

官房第一二二八號ヲ連甲號報知艦計画
改正事項中裝帆ノ件ハ別番之通函付度以段
上申仕美也

明治廿六年八月十六日

吳鎮守府司令長官首地



海軍大臣伯爵西郷從道殿


因所ノ方格有子格納ハズ

海軍

軍令部長 

第一局長 

主事

 洋馬

發行局



校合

六訂本


廿七年六月 日

主務


立案者

大臣  次官 


軍務局長 

第三課長 

課係 


第二課長 

課係 

第一課長 

課係 

經理局長 

第二課長 

訓令案

甲号報知艦諸室配置別紙因面一由改正

スレシ

明治二十七年六月廿五日 海軍大臣

号鎮守府司令長官

七四

再

巨

1751

訓令、傳、平、國、南、人、家、ハ
年、務、分、力、を、保、衛、固、定、後、所

治
軍

1752

軍務局長

吳鐵城一五七 第三

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a military report or order.

Handwritten text on the left side of the document, possibly a signature or date.

七段

海軍

1753
1754

軍務局長

第三課長

印

本年一月軍第一〇号より以て及りて是等甲号ヲ報知
船室割一紙 未々中回各等ノ至急心ヲ取調
相成反也

昭和二十七年五月廿六日

局長
長
長

軍第一〇號

海令癸一四九号一

第三號

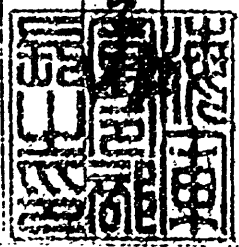
第五

海軍

皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林
 於。皇太后陛下御遺詔部。於。紫雲道之林

明治二十二年三月廿五日

海軍大臣 東郷平八郎



海軍大臣 東郷平八郎

海軍

機関長室ヲ主計室ニ移シ跡ハ順ニ操エケ軍醫

長室ヲ第三分隊長室ニ移ス

水雷長室分隊長軍団長室ヲ寢臺丈ケ、長サニナシ

於長室ノ浴室ト軍醫長室ノ間ニ浴室便所附ノ豫

備室ヲ作ル

機関士室モ寢臺ノ長サニナシ個ノ機関士室ト是レ

士官寢室トノ間ヲ主

② 原ノ製用カトシ機関

トナス

路ヲ作ル其通路ノ

海軍

1758
1759

機関士室ヲ至計室ニ移シ跡ハ順ニ操上ケ軍醫
 長室ヲ第三分隊長室ニ移ス
 水雷長室分隊長軍函長室ヲ寢臺丈ケ、長サニシ
 船長室、浴室ト軍醫長室ノ間ニ浴室便所附ノ豫
 備室ヲ作ル
 機関士室モ寢臺ノ長サニシ個ノ機関士室ト是個
 ノ豫備室ヲ作り此ノ豫備室ト士官寢室トノ間ヲ至
 計室トナス
 士官病室ヲ豫備室ト称ハ二重床トナス
 機関師室モ二重床トナス
 プール前方ノ中央ヨリ後於橋ノ通路ヲ作ル其通路ノ
 下ニ吹煙室ヲ設クレハ至極妙ナラン

海軍

1758
1759

寫

本書心号巡洋艦製造書類ニリ

甲號報知艦ハ艦長室士官室士官次室准士官室食
堂水兵屯所其他必要ノ各室ニ通シ蒸氣暖炉設置候
様取計フヘシ

明治二十八年二月十四日 海軍大臣

吳鎮守府司令長官

官房第四三八号ニ

海

軍

1760

寫

本書丙号巡洋艦制發書類ニリ

甲辨報知艦艇裝部其他木材、個所別紙、廉書、
通金屬製ニ改正スヘシ

明治二十八年五月二日

海軍大臣

吳鎮守府司令長官

官房第一六五八号三

海

軍

1761

軍務局長

第三號



吳鎮第三九〇號ノ六

重第五六三編報知監儀表向之件ニ付
 照會之趣了海第一項諸机寸六外共
 工業院行上ニ於テハテモモモモモ
 来書之如リ金屬製表ニ充テモモモモ
 之感ニル事其心敷自然衛生上向ニ善
 モト被認法ニ付表寸小鏡柄取入ヲ
 除リ、付録ノ表寸木製トシ見ヲエニテ
 爾許備付ニキ見上ニ有之而、第ニ項鐵
 甲板下ニアルニ候室下張モ亦木板ヲエニテ
 ラメーブルトシ通氣、如リ張付ニキ考
 有之其條狀ニ原吉津氣相成度ニ青
 白虫貝報法也

軍第五六三號

明治十八年四月
五地呈請領事府司令長官

山本軍務局長殿

逕下鐵甲板下履室に下張り紙を貼付し
ノ、ニ分之二重に成り、四枚を二枚に自然天井
ニ着着るは、氣息、水が氷柱トナリ、他艦ノ
ニ陸上ニ多ク、ニ分之二重に成り、四枚を二枚に自然天井
ニ着着るは、氣息、水が氷柱トナリ、他艦ノ
ニ陸上ニ多ク、ニ分之二重に成り、四枚を二枚に自然天井
ニ着着るは、氣息、水が氷柱トナリ、他艦ノ



軍務局長

第三課長



吳鎮第三九〇四号ノ内リ以テ提出有候ハ報知艦
機索向金屬製、取リ方極ク有難ク候事
取付多量至急ニ取付ノ内報知有候事

廿八号二月廿二日 局長

吳鎮司令官ニテ

一 諸机、洗面台、寢台、小鏡掛、金屬製ニ為ニ能

ハサレヤ

右参考ノ為メ横濱賀鎮寄附起案圓面ノ別紙

及リ送付

一 内提出ノ別紙備考中、鏡甲板ノ下ニ有リ寢台ノ下張

軍務五六一號

一
二

洋 書	ヲ用ユトアリ此下張ニ木板ヲ以テ通帯ノ如ク下張ルン
	意ヤルヤ
	1765

第三十九卷

製造中之報知艦艇之義舟上上

官房三三七二号ヲ以テ目下製造中之報

知艦艇其地木材ノ所可成金屬製

改正ノ方按據出方者速ニ其基キ為船體

漢前本艦艇是備品之類ニ於テ大體ハ別

紙之通りニテ備品及衛生上ノ及ホニ其原

等ニ於テモ格別之ヲ差支ニ有之間敷ト思料

被致其又定備品類之中ニモ別紙ニ掲ケタル

外ハ金屬製ニテモ使用ニ差支無之一應試

製シテ實験元價値可尙之ト思料致其奈

此段上上谷仕法也

中三三七二号
多明石

明治二十八年三月十七日

長官官有地是之

海軍大臣伯耆野田道致

1767

木製物之鉄製之改正スル所

一 者公室及寢室、高壁

一 倉庫及其他、諸室、欄及柵板、但水而止之

一 上甲板及中甲板、取有樓、配尾、棧、天宮及泉、障子

一 上甲板及中甲板、諸障子

一 障子換子

一 水鏡台

一 端扉子

一 信等ヤード及カーブ

一 衣、唐履、扇

但腰枕、扇用、蓋、而、木製

海軍

公室に不燃質ノ材料ヲ以テ相者ノ裝飾ヲ付スル
 甲板下張ハ鉄甲板ノ下ニシテ燻室ニシテ下張ヲ
 用ユ又燻室及此長公室に不燃質材料ヲ以
 テ相者ノ裝飾ヲ付スル

毎
 車

1770

海 軍

軍務局長

第三課長

軍務二〇八号ノ以テ及リ照会ノ甲号ヲ告知艦機装
向金属製ニ改正ノ件一 方接至急ニ提出ス成否
ト也

廿八年三月三日

局長

品取司令長

軍務二〇八号ノ以テ

1772

海軍省

第三課



横領券 二七八 號二

乙號及丙號巡洋艦機裝等他木材ノ箇
 而ヲ之半重原製ニ改メ方抽了至急提書方
 一ノ第ニ。八號而照會ノ既了否存電目ニ
 元月申一自丁申廿二日迄ニ由田村下後積
 三馬ノ原係在標中諸方並申身少出取
 及此差支
 以故三ノ第ニ
 井上積少製法並有是方

伊豆山子忠子船局長御
 伊豆山子忠子船局長御

號二〇八號三

海軍

1773

軍務局長



第三課長



常年十二月官房第三三七二号訓令係心乙号丙号
巡洋艦機密其他木材、個所、可成金属製之
改心方摘要急の提出も成心付取及の五合

り也

都令有、有車の提出も成事りて果

何の以提出も成我具時日通知を煩る所

廿八年二月五日

局長

格取司官長及

常年十二月官房第三三七二号訓令係心甲号
報知艦機密其他木材、個所、可成金属製

二〇八

取
取

清 算

後方橋の程をよむに及らぬ
なり

也予都合ありては是より提出せし事あり用
何程の程ありては或是の時より進められ
なり

二十八年二月五日 向長

是乃此司合長友

1775